

平成30年度事業報告書

公益財団法人肥後医育振興会

熊本県における医学振興に必要な教育・研究の助成及び委託事業を行い、もって地域医療の向上と県民の健康増進及び日本国内外の医学・医療の進展に寄与するため、次の事業並びに支援を行った。

1. 医学教育・研究の助成（公1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関に属する若手の個人又はグループに対して医学研究助成金を授与するため公募を行い、11名の応募者の中から選考委員会による厳正な選考の結果、以下の4名に授与した。

なお、研究助成金の授与とともに「肥後医育振興会学術奨励賞」を付与することとした。

まえしろ まなぶ
前城 学（29才） 熊本大学大学院医学教育部 博士課程3年

「休眠骨髄播種癌細胞の解析から迫る転移・再発機構の解明」

ふじもと けんじ
藤本 健二（34才） 熊本大学大学院医学教育部 博士課程4年

「中枢神経原発悪性リンパ腫に対する大量メソトレキセート療法においてポリグルタミン化誘導がもたらす効果」

かわの やわら
河野 和（36才） 熊本大学医学部附属病院 特任助教

専門医療実践学寄附講座（血液内科）

「形質細胞特異的な代謝経路を標的とした多発性骨髄腫の治療開発研究」

ふじすえこういちろう
藤末昂一郎（35才） 熊本大学医学部附属病院 助教

医療の質・安全管理部（循環器内科）

「肺動脈性肺高血圧症の重症病態把握と治療効果判定における末梢微少血管内皮機能検査(reactive hyperemia peripheral artery tonometry:RH-PAT)の有用性の検討」

2. 医学国際交流の支援（公1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関に属する外国人留学生に対して奨学金を授与するため公募を行い、選考委員会による厳正な選考の結果、以下の4名に奨学金を授与し、「肥後医育振興会優秀留学生表彰」を付与することとした。

トウ キン ゲン

鄧 欽 元 熊本大学大学院医学教育部 博士課程1年（中国）

ハン コウ シュウ

范 昊 秋 熊本大学大学院医学教育部 修士課程2年（中国）

カウん テイ リン

KAUNG HTET LIN 熊本大学大学院医学教育部 修士課程2年（ミャンマー）

ソン ウ キ

孫 宇 奇 熊本大学大学院薬学教育部 博士課程2年（中国）

3. 熊本県民への医学医療情報提供活動（公2，公3，収1）

(1) 「肥後医育塾」公開セミナーの開催（公2）

県民に対して、定期的に医学・医療情報を提供し、県民とともに考える健康と医療を目指す目的で、一般財団法人化学及血清療法研究所並びに熊本日日新聞社との共催で、市民公開セミナーを年3回開催した。

日本人の平均寿命は女性 87.14 歳、男性 80.98 歳(2016 年)で、わが国は世界 2 位の長寿大国となり、長い人生をいつまでも健康で明るく暮らすため、今後更に医療技術の進歩に大きな期待がよせられており、年間テーマとして「私たちの健康みらい」を取り上げた。

第1回は、「治す認知症！（H30.7.16、ホテル熊本テルサ）」、第2回は、「私たちの未来は”百寿社会”？（H31.1.12、ホテル熊本テルサ）」、第3回は、「ワクチンのこと正しく知りましょう H31.3.21、ホテル熊本テルサ）」の演題で開催し、それぞれ約 421 名、約 226 名、約 107 名の参加者があり、後日熊本日日新聞紙面（H30.8.24、H31.2.15、H31.4.19 付）及び本財団のホームページ上で内容を県民に公開した。

(2) 第9回「熊本県医療人育成総合会議」の開催（公3）

超高齢社会の日本では、認知症患者が急増しており、2012 年に 465 万人だったものが、2025 年には 700 万人まで上昇すると言われている。この状態において、臨床の現場では認知症患者と遭遇することが増え、対象患者が認知症を合併している可能性を恒に考える必要がある。これからの医療人には認知症についての知識と認知症合併症への適切な対応能力が不可欠であり、熊本の医療人育成機関における今後の教育体制や専門家の育成につて議論を進めるために、第9回熊本県医療人育成総合会議」を開催した。

認知症では認知機能障害の治療だけでなく、多職種がかかわりいかに教養面でのサポートをするかで QOL が大きくなっていることが知られており、実際に医療現場でどのようなことが行われているか解説が行われ、また、認知症並びに認知症者に対する理解不足から生じる偏見、不適切な対応が数多く見られることから、「医療人養成機関において、認知症をどのように教育していくべきか」について考察を行った。

認知症の治療や看護については、認知症の治療・リハビリ・ケアをするにあたり、それぞれの時期に対応したチーム医療が求められ、どのようなチームを作成していけばいいのか、また、認知症看護ではより専門的に認知症の病態から症状（生活障害）を予測すること、予防からエンド・オブ・ライフのプロセスを支援していくことが必要となり、それぞれ専門的立場で説明がなされた。

なお、開催に関しては実行委員会を設置し会議の内容の詳細を企画・立案した。

参加対象者は、医療関係の大学・専門学校等の教育関係者、各医療技術者協会の代表者、病院関係の代表者、行政関係の担当者のほかに新聞等で学生や一般参加者も募り、約 100 名の参加があり、後日熊本日日新聞紙面（H30.11.25）及び財団のホームページで内容を県民に公開した。

(3) 生活情報紙「あれんじ」の健康・医学・医療、その他関連記事の編集及び刊行（収1）

熊本日日新聞社が発行するタブロイド版 16 頁の総合情報紙「あれんじ」（35 万部発行）の第一土曜日号の 10 面と 11 面の見開き 2 頁を使い、健康・医学・医療並びに医学に隣接した学問分野の学術情報を県民に提供した。内容としては、「元気の処方箋」（最新の医学医療記事）と「子育て応援クリニ

ック」(小児科関連の医学医療記事)を12回、「慈愛の心・医心伝心」(女性医療人のリレーエッセイ)を8回、「四季の風」(俳句欄)を4回掲載した。

以下に「元気の処方箋」のテーマを記載する。

- 4月 ロボット支援手術をご存じですか
- 5月 快適な生活と健康のために治療を 睡眠時無呼吸症候群
- 6月 適切な治療で神経痛の後遺症を防ぎたい 帯状疱疹
- 7月 内視鏡検査(治療)を正しく知ろう
- 8月 ピロリ菌検査・除菌が予防につながる 胃がん
- 9月 夏冷えによる体調不良を改善(ピラティス編)
- 10月 正しい姿勢・深い呼吸で心身をリフレッシュ(ヨガ編)
- 11月 糖尿病をもっとよく知ろう
- 12月 ワクチン以外の感染予防対策もセットで実行
インフルエンザを予防しよう
- 1月 適切な診断・治療で改善 白内障
- 2月 高齢者とは異なる対応が必要な 若年性認知症
- 3月 発育期に注意したいスポーツ障害

4. 学会・シンポジウムの助成(公4)

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関の研究者が開催する医学・生物科学関係の学会・シンポジウムに対して支援するため公募を行い、次のとおり助成した。

- ① 第16回国際アミロイドーシスシンポジウム(H30.3.25~29開催)
- ② 第34回熊本医学・生物科学国際シンポジウム(H30.10.25~26開催)

5. 医学研究会・研修会等の助成(他1)

(1) 熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関の研究者が開催する医学研究会並びに研修会等に対して次のとおり助成した。

- ① 熊大病院群卒後臨床研修プログラム研修医育成(H30.4.1~H31.3.31開催)
- ② 第18回熊本大学医学部医学科医学教育ワークショップ(H30.10.28開催)
- ③ 第19回熊本エイズセミナー国際シンポジウム(H30.10.6~10.7開催)
- ④ 第52回日本実験動物技術者協会総会(H30.10.4~10.6開催)
- ⑤ 第17回警察歯科医会全国大会(H30.8.25開催)
- ⑥ 第54回高血圧関連疾患モデル学会学術総会(H30.12.6~12.7開催)
- ⑦ 第2回熊本大学・KAIST ジョイントシンポジウム(H31.1.24~1.25開催)

(2) 学生活動に対して次のとおり助成した。

- ・平成30年度本九祭(医学展:熊本大学医学部学生主催 H30.9.15~9.16開催)

6. 広報活動事業(他2)

(1) 本財団の活動状況及び財政状況等を周知するために、広報紙「ニューズレター23号(A4判28頁)」を3,000部発行(H30.8.30)し、関係者へ配布するとともに本財団のホームページ上で内容を県内外に公開した。

(2) ニュース性の高い分かりやすいホームページを目指し、内容を随時更新し、本財団の多彩な活動内容を県内外に公開した。